

薬袋を利用した認知症治療薬（リバスチグミンパッチ剤）の使用状況の確認

【目的】

当薬局で認知症治療薬を使用中の方に、生活状況や薬の管理状況についてアンケート調査を行ったところ、認知症治療薬は「医療従事者又は介護者等の管理のもとで投与すること」とあるが、患者本人が管理していることが多いことが分かった。そこで、使用状況を客観的に確認することができるようなツールが必要ではないかと考えた。今回、リバスチグミンパッチ剤を使用している方を対象とし、オリジナル薬袋を作成したのでその効果を報告する。

【方法】

薬袋にカレンダーを印字したオリジナル薬袋を作成。使用済みのパッチ剤を薬袋に貼付し、次回受診前に当薬局に持参するよう指導。使用状況や副作用等を確認し、医師へのフィードバックを記入した薬袋を医療機関に提出してもらった。施設入所者にもオリジナル薬袋を配布し、使用状況を確認した。

【結果】

ケース1：本人管理の患者。貼り替え忘れが減り、長谷川式スケールのスコアが改善した。
ケース2：オリジナル薬袋の使用ができていた患者。使用状況が悪化したため医師へ連絡。認知度の低下にいち早く気づくことができた。
医師からは「一目で使用状況がわかり、診察に役立つ」。施設職員からは「貼り替え忘れ防止に役立つ」と評価を得た。

【考察】

患者本人が「薬袋に使用済み薬剤を貼付する」こと自体が難しいのではないかと想像したが、薬袋の使用により「使用状況」が向上した患者や、「認知症状の変化」に薬剤師が気づくことができた患者がいた。これらのことにより、オリジナル薬袋の有用性が確認できた。製薬メーカーの協力により、県内のリバスチグミン貼付剤常用先の医療機関17施設にオリジナル薬袋を紹介。他の保険薬局から高評価を得て、メーカーによる公的なツール配布につながった。今後も薬袋の使用を通じて、認知症患者による薬剤管理を支援していきたい。